

STOP 農作業事故～秋季農作業事故防止運動強化期間～

稲刈や果樹の収穫など、機械作業や高所作業が多くなります。農作業はできるだけ複数人で行い、農作業事故防止に努めましょう。

また、9月も気温が高くなる日が多いことから、こまめな休憩・水分補給など、引き続き熱中症対策を徹底しましょう。

■ 米づくり～適期刈取り～

管内の出穂は、平坦部で「はえぬき」「雪若丸」が8/3頃、「つや姫」が8/8頃と平年よりやや早まったため、刈取り適期も早まると予想されます。

適期内に刈り終えて、刈遅れによる品質低下を防ぎましょう！

▷ 刈取り適期

刈取り適期は、出穂後の積算気温を目安に枝梗の黄化、青糲歩合、糲水分、倒伏程度などを加味して総合的に判断します。ただし、枝梗の枯れを待っていると刈遅れになる懸念があるため、糲水分や糲の黄化を優先して判断しましょう。

【品種別刈取り適期の目安】

品種	出穂期	刈取り適期（高温年） 出穂後積算気温の範囲	刈取り適期目安日※		刈始めの 青糲歩合	糲水分
			始	終		
はえぬき	8/3 頃	900～1,150℃	9/8	9/18	20%	25%以下
雪若丸	8/3 頃	900～1,150℃	9/8	9/18	20%	
つや姫	8/8 頃	950～1,150℃	9/14	9/26	15%	

※ 8/18 までを本年値、8/19～29 日までは 2 週間予報、8/30～9/13 は 1 か月予報の平均気温、以降は平年値を用いて積算した目安日。

刈遅れは、「胴割粒」「茶米」「奇形粒」の増加、玄米光沢の低下を助長し外観品質が低下するだけではなく、食味も低下しやすくなります。刈遅れをなくしましょう！

刈遅れで増加する被害粒



「茶米」



「胴割粒」

収穫期はコンバインによる事故が発生しやすく、圃場侵入時や後退時の転落・転倒や、詰まり除去時は必ずエンジンを止めて対処するなど十分に注意しましょう。

■ 果樹

▷りんご収穫について

地色の抜けと果肉硬度を重視して、収穫遅れにならないよう数回に分けて収穫しましょう。

▷落果防止剤について

令和5年度は、高温少雨の影響で落果防止剤の効果が発揮されず、収穫前に落果してしまう事例がありました。土壤水分が少ない園地や乾燥が続く場合は、落果防止剤の効果を高めるため、散布前後に「灌水」を行いましょう！！

灌水量目安：樹冠下に1回200～300ℓ／樹程度灌水し、収穫までに1樹当たり計1tを目安として、2～3回に分けて灌水します。

なお、落果防止剤は単用での散布を基本とし、薬剤の特徴や登録内容を確認して使用しましょう。

【落果防止剤の使用】

薬剤名	収穫前使用日数 使用回数	希釈倍数	散布量（10a）
ストップール液剤	収穫開始予定日 25日～7日前 1回	1,000倍	450～600ℓ
ヒオモン水溶剤	収穫開始予定日 21日～4日前 1回	2,000倍	300～600ℓ

・ストップール液剤

効果の発現までにやや時間がかかり、処理後は着色と熟度が進む傾向があるため収穫遅れに注意しましょう。高温が続く時期の散布は、果実の軟化や油あがりや速まる傾向があるため注意しましょう。

・ヒオモン水溶剤

即効性があり、収穫期近くに散布しても効果が期待できます。処理後は熟度が進む傾向があるが、地色の抜けや着色への影響はストップール液剤より小さいです。

▷もも収穫後防除

収穫後は「せん孔細菌病」対策として、必ず3回防除を行いましょう。気象予報に注意し台風など風雨が予想される場合は事前に防除を行います。なお、薬害が発生する恐れがあるため、9月上旬以降に実施しましょう。

※ 防除について詳しくは、「令和6年JAてんどう病害虫防除暦」をご覧ください。